第３講 【古代編】南アジア・東南アジアと南北アメリカの特質

PART3 南インドと東南アジアの古代王朝

Chapter１ 南インドの王朝と海上交易

目標
南インドで交易が盛んであった理由を理解しよう。
南インド諸王朝の共通点を知ろう。

1 南インドとモンスーン交易

①航路

A １世紀頃，アラビア半島とインドの間で，**季節風**（**モンスーン**）を利用した航海が確立

B 同じ頃，インドと中国とを結ぶ航路も開かれる
→この２つの航路によって〔　　　　　　　〕が開けて活発に交易が行われる

C インド洋に突き出した**南インド**は東西交易の重要地となった

②交易品

A ローマ帝国時代の１～４世紀頃，インドからは胡椒・宝石・象牙などを輸出，
地中海世界からは大量の金貨・ガラス・金属細工・ワインなどを輸入

B スリランカ・**扶南**（ベトナム南部からカンボジア）・**チャンパー**（ベトナム中部）・**シュリーヴィジャヤ**（スマトラ島・マレー半島）などが，香辛料・絹・茶・陶磁器などの交易によって栄える

③書物

１世紀中頃にエジプト在住のギリシア人が紅海・アラビア海・インド洋の航海案内書『〔　　　　　　　　　　　　　　　〕』を著す

2　南インドの王朝国家

前１世紀　マウリヤ朝が衰退すると，南インドのデカン高原に〔　　　　　　　　　　〕系の〔　　　　　　　　　　　　　　　〕が独立

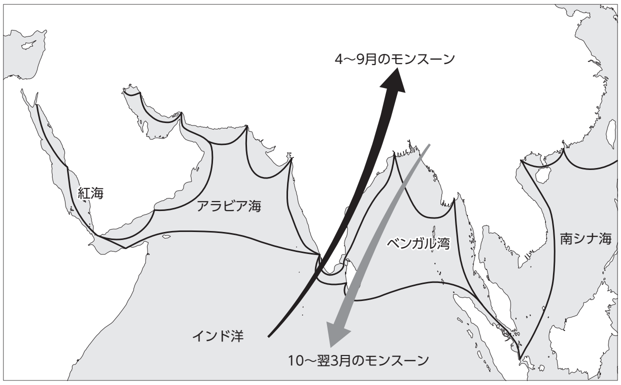
→インド洋沿岸にかけて勢力を伸ばし，インド洋交易で栄える

→半島南端部では，ドラヴィダ系**タミル人**王朝の〔　　　　　　　　　　〕，最南端部の**パーンディヤ朝**が，南インドの特産品である綿布など，重要商品の産出地として栄える

※パーンディヤ朝は独自のタミル文化を生んだことでも知られる。

※南インドにヒンドゥー教文化が広がると，６世紀半ば頃から，ヒンドゥー教のシヴァ神やヴィシュヌ神に対する熱烈な信仰がおこる。〔　　　　　　　　〕**運動**が盛んになり，ジャイナ教や仏教を排除しながらインド全体にヒンドゥー教が定着する要因となった。

前３世紀　スリランカに進出していたアーリヤ系の**シンハラ人**に仏教が伝わり，**上座部仏教**（小乗仏教）の中心地となる



南アジアの海上交易

南インドの王朝

まとめ　南インドは地理的に航海上の要衝となったことで交易が栄えた。
サータヴァーハナ朝・チョーラ朝，パーンディヤ朝はいずれも海上交易で栄えた。

Chapter２　東南アジアの地理と諸文明

目標
東南アジアの風土の特徴を考えよう。
東南アジアではどのように国家が形成されていったのだろうか。

1　東南アジアの地理

①**大陸部**

A　インドシナ半島→北部の山地から河川が平原に流れてデルタを形成

B　平原部は雨季と乾季のある熱帯サバナ気候

C　紅河（ホン河），メコン川，チャオプラヤ川，イラワディ川など大河川水系で結ばれ，多彩な言語系統の人々が入り組んで分布

②**諸島部**

A　インドネシア，フィリピンなどは主として年中雨量が多い熱帯雨林気候
→河川と海を水路として移動し，主に**マレー系**の諸言語を話す民族が往来
→インド洋と南シナ海にまたがる国際的な海上交易路と接続
→交易が拡大すると，多くの〔　　　　　　　　〕が生まれ，発展

B　前2000年紀には大陸部に稲作が伝わり，前1000年紀には諸島部にも及ぶ

2　東南アジア大陸部の古代王朝

①ベトナム北部

前４世紀頃　青銅器の**銅鼓**で知られる〔　　　　　　　　〕文化
※銅鼓は中国南部～東南アジアの広い地域に分布→交易が活発だったとわかる。

前214年　秦の始皇帝が**南海郡**などを設置→以降，中国王朝のベトナム支配が続く

1009年　**李朝**が独立。1054年に国号を**大越**国とする

②ベトナム中南部

２世紀末　チャム人が独立。中国名で**林邑**と呼ばれ，南シナ海で盛んに交易
→４世紀頃から「インド化」が進み，インド風の〔　　　　　　　　　　〕と自称

③カンボジア

１世紀末頃　メコン川下流に〔　　　　〕が成立→**オケオ**の遺跡の出土品から，東西交易の繁栄が示された

６世紀　内陸部のメコン川中流域に**クメール人**の**カンボジア**（**真臘**）が建国される

12 世紀　仏教寺院の〔　　　　　　　　　　　　　　〕を造営

④ビルマ（ミャンマー）

9 世紀まで　イラワディ川下流域に，ビルマ系の**ピュー人**の都市国家が栄えた

11 世紀　ビルマ族の**パガン朝**がおこり，スリランカなどから上部座仏教が広まった

⑤タイ

7 世紀　チャオプラヤ川下流域で，**モン人**の**ドヴァーラヴァティー王国**が栄える

13 世紀半ば　タイ北部に**タイ人**最古の統一王朝〔　　　　　　　　　〕がおこる

3　東南アジア諸島部の古代王朝

①スマトラ島

7 世紀半ば　マレー人が東南部に〔　　　　　　　　　　　　　　〕王国を建国

→パレンバンを中心に海上交易の要衝として繁栄

7 世紀後半　唐僧の**義浄**が南アジアへの往復途中に訪れ，大乗仏教の興隆を記す

②ジャワ島

8 世紀後半　マレー人が島中部に大乗仏教国の**シャイレンドラ朝**を建て，

世界最大の仏教寺院の〔　　　　　　　　　　〕を造営

→島中部の盆地ではジャワ人による**古マタラム王国**が生まれた

東南アジア

まとめ　大陸部にはベトナム，ラオス，カンボジア，タイ，ビルマ（ミャンマー）があり，諸島部にはマレー半島，スマトラ島がある。
各地域の民族が独自に国家を形成し，東西交易や海上交易により発展した。

第３講　PART３　確認問題

1　１世紀頃には開かれていた，地中海から南アジアを経由して中国に至る海上交易のルートを何というか。

①　シルクロード　　②　草原の道
③　海の道　　④　オアシスの道

2　１世紀頃のインド洋の季節風を利用した海上交易でローマ帝国からインドに大量にもたらされたものは何か。

①　胡椒　　②　宝石
③　綿布　　④　金貨

3　前１世紀のマウリヤ朝衰退後，南インドのデカン高原で独立した王朝は何か。

①　パーンディヤ朝　　②　サータヴァーハナ朝
③　チョーラ朝　　④　チャールキヤ朝

4　スリランカで前３世紀頃に上座部仏教を受容したアーリヤ系の民族は何か。

①　シンハラ人　　②　クシャーナ族
③　タミル人　　④　シャカ族

5　前４世紀頃にベトナム北部を中心におこった金属器文化を何というか。

①　スキタイ文化　　②　シュメール文化
③　ドンソン文化　　④　メコン文化

6 13 世紀半ばにタイ北部におこったタイ人最古の統一王朝は何か。

① スコータイ朝　② パガン朝
③ ドヴァーラヴァティー王国　④ アンコール朝

7 ７世紀半ばにマレー人らがスマトラ島東南部に建てた王国は何か。

① チャンパー　② 大越国
③ シュリーヴィジャヤ王国　④ マタラム朝

8 ジャワ島中部の大乗仏教国シャイレンドラ朝が造営した寺院は何か。

① アンコール＝ワット　② ボロブドゥール
③ オケオ　④ パゴダ

第３講　PART３　確認問題　解答

1 解答：③　**「海の道」**は地中海から南アジアを経由して中国を結ぶ海上交易ルート。

2 解答：④　１世紀頃に西北インドを支配したクシャーナ朝は活発に国際交易を行い，ローマ帝国からは大量の**金貨**が輸入された。

3 解答：②　マウリヤ朝衰退後に南インドに勢力を伸ばした**サータヴァーハナ朝**はインド洋交易で栄えた。

4 解答：①　スリランカ（セイロン島）に進出していた**シンハラ人**は上座部仏教を受容した。

5 解答：③　中国の青銅器文化を取り入れてベトナム北部に独特な青銅製の銅鼓で知られる**ドンソン文化**が成立した。

6 解答：①　タイ北部におこったタイ人最古の統一王朝は**スコータイ朝**である。

7 解答：③　マレー人らがスマトラ島東南部に建てたのは**シュリーヴィジャヤ王国**である。

8 解答：②　**ボロブドゥール**はジャワ島中部にシャイレンドラ朝が建てた**大乗仏教の寺院**である。